

「外国人市民による日本語スピーチコンテスト」のあゆみ

平成元年に国際交流協会が発足し、交流活動をはじめ外国人相談や姉妹・友好都市への市民交流団体の派遣などから事業が始まりました。その後、外国人市民の方々に外国の民族音楽を披露して頂いたり、お国自慢の料理を教わったりと、交流は次第に深まりを増してきました。そうした流れを受けて、平成7年に第1回「外国人による日本語スピーチコンテスト」が開催され、来春には16回目を迎えようとしています。

この「コンテスト」では、流暢な日本語で、或いは多少型破りな日本語で、人情の機微に触れた嬉しさや日本文化への傾倒などが語られたり、また自身の失敗談や日本の習俗への風刺など、毎回多彩で発想豊かなスピーチが披露されます。

今回は、20周年に因んで「コンテスト」歴代入賞者の中から4名の方に、スピーチコンテストにまつわるエピソードや近況などを聞きました。



▲2006年スピーチコンテスト

▲2008年スピーチコンテスト

Q1 **日本語で一番好きな言葉、在日期間と滞在理由、スピーチコンテストについて** (参加のきっかけ、一番の思い出、大変だったこと、よかったこと)

Q2 **近況** (現在も日本語の勉強は続けていますか? 勉強した日本語は役立っていますか? これから参加する皆さんへのアドバイスはありますか?)

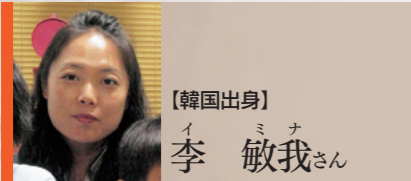


【ネパール出身】
Pradhan Puja
プラダン・プザさん

A1: プラダン・プザです。日本に来て、今年で5年目になります。留学のため日本に来ました。現在、亜細亜大学、3年生です。日本語で一番好きな言葉は「愛」です。私は日本語学校の先生のおかげでスピーチコンテストに参加することができました。日本語学校で日本語を学んでいましたが、その時の私の日本語はまだだめでした。ですから、スピーチを書いて覚えるのが一番大変でした。しかし、スピーチコンテストに参加したことがきっかけで

くさんの友達ができました。また、スピーチコンテストの当日に着物を着させていただいたのが嬉しかったです。何よりもスピーチコンテストのお陰でたくさんの方と交流できたことは一番良かったと思います。

A2: 私は現在も日本の大学に通っていますので、「スピーチコンテストに参加しました」と言えることを誇りに思っています。毎年、川崎国際交流協会の主催で行われるスピーチコンテストのようなプログラムは、国際文化交流や留学生が日本文化を学ぶのにも大切な役割を果たしていると思います。



【韓国出身】
Lee Mina
李 敏我さん

A1: こんにちは、イ・ミナです。2007年当時、日本滞期間が4年を少し過ぎ、ぎりぎり参加する機会を得ました。1998年に初めて日本にきて3年滞りましたが、主人の転勤で中国北京に引越し、5年間住むことになりました。そして2006年に帰国したのですが、今までに勉強した日本語をだいぶ忘れてしまいました。それで、復習する気持ちで参加することにしました。久しぶりの勉強は思ったより簡単ではありませんでした。以前とは違って子供が2人もいるため、勉強時間を作るのが難しかったためです。でもコンテストのおかげで、久しぶりに受験生の気持ちになって勉強することができました。一番記憶に残っているのは、練習をしすぎてコンテ

ト近くになって風邪を引いてしまい、声が出なくなってしまうことでした。病院では治るのに1週間以上かかると言われました。コンテスト当日も、声がほとんど出なくてみなさんにハスキーボイスを聞かせることになってしまいました。でもコンテストが終わってから、自分の日本語力がぐんと上がったことを実感しました。

A2: 今は愛知県に引越して新しい環境に慣れつつあります。でも、ここでは私のような外国人がほとんどいないので、さみしい気持ちです。こちらに来て車の運転を始めました。韓国で免許を取って以来15年間ペーパードライバーだった私が、本当に「必要は人を変化させる」と思います。今はけっこう遠いところまで(そうはいっても近所のスーパーですが)運転します。でも見慣れない道路標識や漢字があって、運転中にびっくりすることがあります。そういうこともあって、最近また漢字の練習をはじめました。こんどはコンテストのとき以上の日本語をマスターできるようがんばりたいと思います。



▲2009年スピーチコンテスト

【プロフィール】
第13回(2007年) プラダン・プザさん【ネパール出身】
「ライバルは私のエネルギー」国際交流協会優秀賞

第15回(2009年) 李 相赫さん【韓国出身】
「私の『恩返し』」国際交流協会優秀賞

第13回(2007年) 李 敏我さん【韓国出身】
「三国物語」最優秀賞

第15回(2009年) 李 征平さん【中国出身】
「私の趣味アメフト」川崎ライオンズクラブ優秀賞



【韓国出身】
Lee Sanghyok
李 相赫さん

A1: イ・サンヒョクです。2008年4月～2009年3月末の1年間、日本語勉強のため日本に滞在しました。好きな日本語は「こだわり」です。あることに拘泥し執着する意味ですが、自分がしていることに集中し、もっと良い結果が得られるためベストを尽くすとの意味もある、日本特有の言葉なので好きです。スピーチコンテストで大変だったことは自分の気持ちが伝わるよう表現すること、しかも外国語で表現するのが何より一番大変でした。良かったことは、そのお陰で日本語のイントネーションやアクセントなどが非常に良くなりました。受賞後、他の受賞者達と一緒に相撲部屋の見学やライオンズパーティーに参加して、交流ができて良かったです。スピーチコンテスト出場は学校(外語ビジネス専門学校)の担任の先生の勧めです。一番の思い出は相撲部屋でちゃんこ鍋を食べたこと、実際にまわしをしてみてもって力士と稽古をしたのは忘れられない思い出です。またライオンズクラブのパーティーへ招待してもらい川崎市の地域の方々と歓談したことも楽しかったです。

ランチをしながら会話の勉強をしています。仕事で日本への出張も多いので日本語がとても役に立っています。大勢の人の前で、しかも外国語でスピーチをするのはとても緊張することで、簡単ではないことだと思います。さらに、たったの5分のスピーチのためにたくさんの時間を割いて準備するのも大変です。でも、私の場合はその過程からとても多くのこと、例えば、日本語の実力、良い友達など一生忘れられない素敵な経験を得ました。ですからこの程度の苦勞なら一度挑戦してみる価値のあることだと思います。参加されるみなさんも思い切って挑戦してみてください。がんばれ!



A2: はい。同じ会社の日本人同僚と週2回、



【中国出身】
Li Zhengping
李 征平さん

A1: リ・セイヘイです。昨年(08年4月)日本語学校に通うために来日しました。日本の大学に来年進学するつもりです。日本語で一番好きな言葉は「神の一手を極めるために」(マンガ「ヒカルの碁」)と「全国制覇」(マンガ「スラムダンク」)です。スピーチコンテストへの参加のきっかけは学校の先生の紹介です。コンテストに参加したら、いい勉強になると思って参加しました。よかったことは先生に本番のとき、「一番よかった」とほめてもらったこと、スピーチの後、着物体験を見せてもらったのもよかったです。コンテストに参加したおかげで、その後の相撲部屋見学と日航ホテルでのパーティーもいい思い出になりました。

はき言ってください。最後、内容は面白い話をこしらえてください。最優秀賞をもらったフランスの方のスピーチは超面白かったです。次は日本へ来たばかり、日本語があまり上手じゃない外国人のみなさんに話したいです。(実は自分もぜんぜん上手じゃないですけど。笑)今ここで日本語をしっかり勉強してください。日本語が上手になれば、暮らしやすくなるでしょう?日本語が下手だから、日本人と話す勇気がないということは理解できますが、下手でも、恥ずかしい思いを乗り越えましょう!ほとんどの日本人はやさしいです。特に日本人の店員さんはすごく丁寧です。わからない言葉やものごとがあったら、教科書を読むより、日本人に聞くほうが覚えやすいと思います。学校だけではなく、日本語の勉強方法は結構あります。テレビを見たり、雑誌や新聞を読んだり、いろいろな所へ行ったり、どれでも日本語の勉強になります。自分の趣味をつなぎ合わせると、勉強は楽になりますよ。たとえば、私のある友達にゲームが好きで、ほかの人より、漢字が得意ですよ。私はアニメが好きで、聞くほうはクラスのほかの人より慣れているかもしれません。じゃ、皆さんも日本での楽しい思い出を作りましょう。



A2: 今でも日本語の勉強は続けていますし、もちろん役立っていますよ。これから参加する皆さんへのアドバイスは、まず、「緊張しないで」。そういっても本番では緊張するはず。だからこそ、よく準備しておいて、よく読んでおいて、すらすら読めるようになってください。そして、スピーチのときは頭をあげて、目が元気に見えるように、はき

「外国人市民による日本語スピーチコンテスト」は、発足してまもなく開講した「外国人のための日本語講座」とともに、なくてはならない事業として最近ではすっかり定着してきました。川崎市で日本語を学ぶ外国の皆さんの目標にもなっているようです。これからも日本語や日本に対する思いを発表できる場になればと思います。

次回「第16回外国人市民による日本語スピーチコンテスト」は川崎市国際交流センター・ホールにて、2010年2月20日午後1時から開催いたします。レセプションルームで交流会も催しますので、ぜひ一度いらしてみてくださいね。

(文書編集:編集ボランティア 青柳尚子・伊東都)

お待ちしています!

第16回

川崎市国際交流協会設立20周年記念

外国人市民による日本語スピーチコンテスト

2010年2月20日(土) 13:00~ ◎会場:川崎市国際交流センター・ホール(コンテスト) **入場無料**

来日5年未満の外国人市民が、日頃の日本語学習の成果を披露。

コンテスト終了後には、出場者を囲んでの交流会も予定しています。

(交流会は参加費500円・事前申し込みが必要です)